明けましておめでとうございます

議会新聞

社団法人
日本地方議会新聞協会
発行所　議会新聞社
定価
法人年　15750円　個人　7900円
東京都千代田区永田町 2-17-17
アイオス永田町 200
www.kaerusouken.jp

新年にあたり

第二二五代
今上天皇　明仁陛下

昨年は大雪や大雨、さらに御嶽山の噴火による災害で多くの人命が失われ、家族や住む家をなくした多くの人々が、気持ち を察しています。また、東日本大震災からは四度目のさくらが、放射能汚染により、かつて住んだ地に戻れずにいる人々や仮設住宅で暮らしている人々を思うとすべもなく、ただ祈るのみです。

昨今の天災を思う時、それぞれの地域で人々が防災に関心を寄せ、地域を守っていくことが、いかに重要かということを感じています。本年は戦後から七十年という節目の年に当たります。

多くの人々がなくなった広島、長崎の原爆、東京空襲などによりこれらの人々の数は遥に多くもの であります。この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本の向け方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています。

この一年が、我が国の人々、そして世界の人々にとり、幸せな年となることを心より祈ります。

新年あけましておめでとうございます。

内閣総理大臣
自民党総裁
安倍晋三氏

総理就任から早が経ちました。この間、経済の再生をはじめ、東日本大震災からの復興、教育再生、社会保障改革、外交・安全保障の立て直しなど、各般の重要課題に全力で当たってまいりました。さらには、地方創生、女性が輝く社会の実現といった新たな課題にも、真正面から取り組んでまいりました。

そして去年の総選挙では、国民の皆様から力強いご支持を頂き、引き続き、内閣総理大臣の重責を担うことになりました。

いずれも戦後に以来の大改革であり、困難な道のりです。しかし、信在という大きな力を得て、今年は、さらに大胆に、さらにスピード感を持って、改革を推進の年。日本の将来を見据えた「改革断行の一年」にしたい、と考えております。

総選挙では全国各地を駆け巡り、地方にお住いの皆さまから、中小・小規模事業の皆さまなどの声を、直接伺う機会を得ました。

「なぜ甲子園なのか」

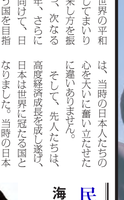
上杉謙山のこの言葉を、東洋の魔女と呼ばれた日本女子バレーボールチームを、東京オリンピックでゴールメダルへと導いた、大松監督曰く、好ならず使い、すなわち、ひたむきに打ち込む。

「地方創生」、民主主義の最初の学校である地方自治の充実に、しっかり力を注ぐ。

「地方創生」は、地方の人口減少、高齢化、地方自治の危機を論じる際にしばしば引用される。

公明党代表
山口那津男氏

勢いよくダッシュ！元朝の太陽は昇った！年頭なる熱いよくダッシュ！



国の国外にたびたび「旗印」、懸案は山積し、身の引き締まる2015年の幕開けとなりました。

今年は、戦後70年の節目であります。

日本は、先の大戦の深い反省のもとに、戦後、自由民主的な国家として、ひたすら平和国家として、この道を歩み、世界の平和と繁栄に貢献してまいりました。その実力を振れば、まだまだ足りません。

そして、先人たちは、高度経済成長を成し遂げ、日本は世界に冠たる国となりました。当時の日本人に出来て、今の日本人に出来ないはあるのでしょうか。

国民の皆様方にも、日本を、再び、世界の中心で輝く国としていくべく、ご一緒に、新たに、歩んでまいります。

最後に、国民の皆様のご一層の御理解と御支援をお願い申し上げることも、本年が、皆様一人ひとりにとって、実り多きものとなりますよう、心より祈り申し上げます。

民主党代表
海江田万里氏

全国勝手連合会　会長
国会・両院応援者会　顧問委員
（社）日本地方初聞協会副会長
光永　勇

書き初めに何の字を書こうかと、悩みに悩んだ。寒風吹き荒れる中、今年はこれがないと思い、静かに考えていた。

「寒さに耐えて独り立ち」

正や経済対策の法案を閣議決定しました。

民主党がどうかやりなさいと言うのであれば、今年は民主党にとって、政治改革元年にしたいと思っています。

暮れの安倍政権の税制改正や経済対策の法案を閣議決定しました。

今年は、戦後七十年、被爆七十年という節目の年である。

連動して七十年、被爆七十年という節目の年である。

「なぜ甲子園なのか」

上杉謙山のこの言葉を、東洋の魔女と呼ばれた日本女子バレーボールチームを、東京オリンピックでゴールメダルへと導いた、大松監督曰く、好ならず使い、すなわち、ひたむきに打ち込む。

「地方創生」、民主主義の最初の学校である地方自治の充実に、しっかり力を注ぐ。

「地方創生」は、地方の人口減少、高齢化、地方自治の危機を論じる際にしばしば引用される。

勝つ極意

勝手連バイブル

共産党委員長
志位和夫氏

新春のごあいさつ
2015年一月一日

「自共対決」時代の本格的な到来

2015年、明けましておめでとうございます。

昨年1月に行われた総選挙で、日本共産党は、比例代表で06万票を獲得し、4議席を獲得しました。

比例代表で06万票を獲得し、4議席を獲得しました。

比例代表で06万票を獲得し、4議席を獲得しました。

この選挙で唯一躍進した党が日本共産党だった。

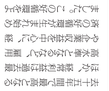
この選挙で唯一躍進した党が日本共産党だった。

この選挙で唯一躍進した党が日本共産党だった

経済産業大臣　宮沢洋一氏

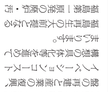
政治資金の透明化、公正な運用を図る。

国土交通大臣　太田昭宏氏



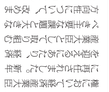
「地域の力」を生かす。

国家公安委員会委員長　山口俊一氏



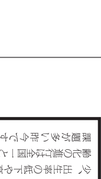
「安全・安心」の実感。

総務大臣　高市早苗氏



地方創生の推進。

法務大臣　岩城光英氏



「法の支配」の徹底。

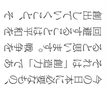
外務大臣　岸田文雄氏

「積極的平和主義」の推進。

文部科学大臣　馳浩氏

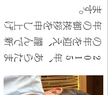
「教育再生」の実行。

厚生労働大臣　塩崎恭久氏



「一億総活躍社会」の実現。

農林水産大臣　森山裕氏



「攻の農林水産業」の実現。

経済再生担当大臣　甘利明氏

「三本の矢」の推進。

環境大臣　丸川珠代氏

「地球温暖化対策」の推進。

国家公安委員会委員　古屋圭司氏

「拉致問題」の解決。

内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）　江崎鉄磨氏

「沖縄振興」の推進。

内閣府特命担当大臣（金融）　麻生太郎氏

「金融システム」の安定。

内閣府特命担当大臣（経済財政政策）　甘利明氏

「経済財政政策」の推進。

内閣府特命担当大臣（地方創生）　石破茂氏

「地方創生」の推進。

内閣府特命担当大臣（規制改革）　石破茂氏

「規制改革」の推進。

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）　丸川珠代氏

「消費者及び食品安全」の推進。

内閣府特命担当大臣（行政改革）　山口俊一氏

「行政改革」の推進。

内閣府特命担当大臣（男女共同参画）　高市早苗氏

「男女共同参画」の推進。

内閣府特命担当大臣（少子化対策）　馳浩氏

「少子化対策」の推進。

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）　丸川珠代氏

「消費者及び食品安全」の推進。

内閣府特命担当大臣（原子力防災）　石破茂氏

「原子力防災」の推進

全国の勝手連の仲間たちから

「議会新聞」新年あいさつ

自民党地方創生実行統合本部長 衆議院議員 河村建夫氏

新年明けましておめでとうございます。「議会新聞」を通じて議会制民主政治の健全な発展に献身しておられる皆様はなべて共に変化しながらも力強く歩む年をお迎えのことお慶び申し上げます。

わが自民党政権は奪還を迎えて早くも三年目。安倍政権主役ではない。天皇の意を体して国民に尊すべき時代を迎えるべく、アベノミクスへ経済の三本の矢の故事にならえる「アベノミクス」。第一の矢・機動的財政出動、第二の矢・機動的金融政策。本年は第三の矢、民間投資を喚起する成長戦略が正念場を迎えます。その前心を豊かな地域社会を目指す地域社会を担う人材の育成・地域資源の活用による地域の魅力の創出・地方からの声を成長戦略に生かすべく地域選挙区の議員の機能を踏まえ国会に送り出す。第二次内閣改造で多様な人材の登用を図り、党規約の任期を延長し、党規約の任期を延長し、党内の任期を延長し、党内の人材の育成・多様な就業・業務の創出・地域の創出・地方の創出を推進することとしています。平成二十七年度予算でも「地域の地方創生を生み出す」のいま日本は新たな国家いまは日本は新たな国家体制を整えるべき時期に来ているとも認識する。憲法改正とという始題ないじりのために国の基本を問ってはならない。日本は真剣に議論を重ねるべきである。世界とのグローバル正隣諸国の協会を取り つつ、新憲法を作るべきである。世界とのグローバル正隣諸国の協会を取り つつ、新憲法を作るべきである。世界とのグローバル正隣諸国の協会を取り つつ、新憲法を作るべきである。世界とのグローバル正隣諸国の協会を取り 弘い、第二次世界大戦の敗戦をなぜ始まったのか。日本の神都・の国の基本を問ってはならない。日本は真剣に議論を重ねる

維新の党代表
江田憲司氏

あけましておめでとうございます！

今年は維新カラーを前面に押し出していきます。自民党でもない民主党でもない「ここに維新あり」と国民の皆さまに理解いただける国会活動、政治活動に徹していきます。

それは、しがらみのない立場から、改革を断行することです。既得権益と闘う改革」「抵抗勢力を打ち破って改革」で、自民党は利権王力団体のしがらみに足をとられ、民主党は公務員労組に足をとられ、口先だけの改革をとられ、口先だけの改革を唱えるだけです。

今年は維新カラーを取り払い、その活力、能力を存分に発揮させる、中央集権体制を打破し地域に根限、財源を徹底的に移譲し地域の自己決定権を取り戻す。そう、「国盗り」ならぬ「地域」が主役の国づくりです。もちろん議員や政人が身を削る改革も断行します。

不思議と大変な思ってもっと大変と思っている人がなんとかがんばってくれたりしてなんとかなってきましたけれど。これもみんなの発揮だと確信しています。

「前向き」な姿勢だったからかもしれません。

一昨年末、みんなの党を離党して、結いの党を結成して一政党再編」を唱えて、「国民の信任を得た」とする安倍政権は、アベノミクスの失敗や閣僚の政治スキャンダル問題、沖縄県知事選での敗北責任などを無視し、「国会軽視・民意無視」の暴走政治を加速させていくおそれがあります。雇用全般をブラック職場の拡大や、事故対策も興味もない原発再稼働に向けて、沖縄の辺野古基地建設強行、農林水産業や地方を疲弊させるTPPへの参加、消費税率10%引き上げと社会保障切り捨ての強行、国会での国民の眼前にさらされる安倍政権の暴走に対抗するための、様々な団体や市民の皆さんと、平和憲法を活かし平和を創造するために全力を挙げます。

私は覚悟してしまいました。

昨年は、維新の党が目指す「緑の党」は正反対の方向へ世の中が進んでしまうことに無念感をおぼえ、また、私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

いよいよ統一地方選挙をむかえ、国会議員選挙に向けた準備もはじまります。私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

昨年は、緑の党が目指す「緑の党」は正反対の方向へ世の中が進んでしまうことに無念感をおぼえ、また、私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

2015年春にはいよいよ統一地方選挙をむかえ、国会議員選挙に向けた準備もはじまります。私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

2015年がどのような年になるかは、参議院議員選挙に向けた準備もはじまります。私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

2015年がどのような年になるかは、参議院議員選挙に向けた準備もはじまります。私たちが立ち向かう壁の大きさを実感しました。

社民党党首
吉田忠智氏

新年明けましておめでとうございます。

昨年の衆議院総選挙で社民党は、「平和と福祉はやっぱり社民党」を掲げて、全国各地で党の公約を訴えました。たくさんの厳しい選挙の中、国民のみなさまから、社民党に期待を寄せる支持してくださった方がたくさんいらっしゃいます。

そして、「国会議員の一議席」の発議権が、「議席」の一議席」の発議権が、「議席」の一議席」の発議権が、「議席」